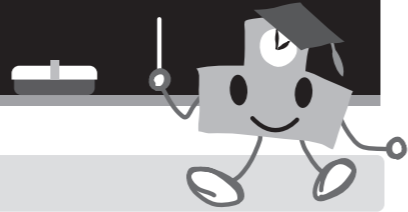


中学校の事例 豊平区 八条中学校

視野を広げたリサイクルの取組。 効率的な活動手段で広がりを。

リングブル回収は校内だけでなく地域に根付いている。
さらにメディアに働きかけ活動を知ってもらうことで
社会的な意義を見出すことができている。



内容 リングブルを共同回収

本校では、以前からリングブルの収集活動に取り組んでいたが、車いすに交換できる量までなかなか到達しないという悩みを抱えてきた。5年ほど前に行われた、PTA連合会主催のTSS（豊平区生徒会サミット）において、参加生徒から「リングブルを共同で回収してはどうか」という提案があり、それに賛同した本校の生徒会が中心となって、平成20年4月より、それまでリングブル再生ネットワーク（通称プルネット）に登録されていた各校の回収量の合算を開始。現在では10校が参加しており、「札幌市豊平区小中学校」という団体名で登録されている。今までに3台の車いすに交換され、職業体験などでお世話になっている地域の福祉施設へ寄贈した。

本校では、各クラスに回収BOXを設置し、毎月末、クラスの代表が生徒会室にもって行き、生徒会役員が計測、専用の麻袋に移し替えている。1袋いっぱいになると30kg程で、集まったものは1袋単位でプルネットへ連絡。協力運送会社の空き便を利用して運搬される。

回収してもらった際に運送会社から受取状をもらい、プルネットへFAXで送付して手続きが完了。

校区内の温水プールや小学校にも回収BOXを置かせてもらい、月1回程度、放課後に生徒が回収。また、地域の町内会も取組に協力的で、生徒会担当の教師に連絡したうえで学校まで届けて下さる一般市民の方もいらっしゃる。このような地域の協力もあり、本校では近年1年で4～6袋程度の回収量になっている。



第6回生徒会サミットにて行われた第2回車いす贈呈式

効果 校内から校外へさらに広い視野を

生徒にとっては、ボランティア活動の目玉であり、日常活動として定着している。豊平区内でも主導的な立場に立つことや、協力頂いている公共施設や町内会の方との関わりをととして、活動への責任や継続の意味を感じているようである。

また、活動を周知し広めるという意味でも、宣伝活動の重要性を感じており、TV局（HTB、NHK）、新聞（北海道新聞）、コミュニティFMラジオ（FMアップル）、AMラジオ（STVラジオ）に連絡し、本校の取組を取り上げてもらえるよう働きかけた。

これにより、校内だけではなく活動の広がりを意識することができ、社会的な意義を見出すことができた。日常的にボランティア意識をもち、地域や社会との関わりのある活動を継続していくことで、広い視野をもち、地球や環境に目を向けられる心を育てている。



校区内の豊平小学校からリングブルを受け取る生徒会役員

今後 地域とのつながりを大切に継続できるシステムを

リサイクル効率的には、缶ごと集めた方がよいと思うが、保管場所や分別（リングブルはアルミ製であるが、缶本体はアルミ製と鉄製があり、回収時に分別が必要）の問題があり、実現は難しいのが現状。（実施している学校もある）

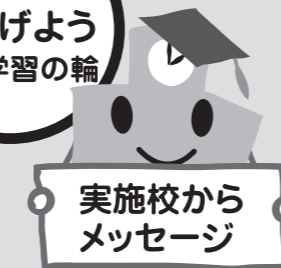
リングブル回収は間口が広く、費用もかからないので取り組みやすい活動であるが、長く続いていく活動にするためには、思いつきでやるのではなく、計画的に、そして負担を軽くする工夫が必要。そのためには、立ち上げの際にどれだけ「担当教諭が替わってもスムーズに活動できるシステム」を構築できるかが重要である。

また、総合的な学習の時間で職業体験でお世話になる会社や、通学路にある施設とのつながりを大切に、地域と協働していくことで、より効果的な結果が生まれる。さらに、メディアを戦略的に利用し、報道してもらうことが、社会的な意義のある活動には有効だと考えており、今後も積極的に取り入れていきたい。



回収BOXからリングブルを移し替えている生徒会役員

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



効率的な回収システムを構築するまでが大変です。生徒の負担になりすぎず、活動の成果が目に見えてわかるようなものにして長く続けていくために、回収先と相談を重ね共同回収を提案、システム構築しました。

環境活動は1つの活動でも色々な方法があると思われるので、次々と新しい活動に取り組んでいくのではなく、別な観点、切り口での活動を考えたいです。例えば、実際に車いすが使われている場面の取材や、回収活動をより効率的に行う工夫、一般生徒への浸透、社会的なアピールなど、広がりはあると思います。生徒の発案も大切にしたいと考えており、近年始めた公共施設への回収BOXの設置は生徒のアイデアによるものです。

また、環境教育の推進を促されますが、時間も予算も人材も何もない状態では難しいのが現状です。市や教育委員会には、各校に予算を配分するなり、人材の補填をするなどの更なる協力体制を期待します。